

第 2 回策定委員会後の意見

NO.	意見
1	<ul style="list-style-type: none"> ・大枠は素案のとおりで良いと思う。 ・前回の会議で中学生の読書離れが問題になったが、小学校高学年から中学生にかけて不読率が高くなるのは、部活の問題や、高校進学のための塾通い等やストレス社会に身を置かざるを得ない、今どきの子どもを取り巻く社会的要因も多くあり、学校や図書館等の取り組みだけでは解決しがたい要素が大きい。 ・重点課題で小学 6 年をとりあげたらどうかという提起があったが、小学 6 年生だけを取り上げるのは概ね 18 歳までの子どもを対象とする計画の趣旨からいってどうかと思う。また、結果を出すのも極めて困難であると思う。学校や図書館だけの取り組みでは如何ともしがたい面もあるので、賛成できない。 ・議論の中でも本を読むことだけが良いのかという意見もあったが、本をたくさん読むよりも 1 冊でも好きな本と出会った経験があったら、本を含めた情報の必要に迫られた時に、図書館に思い至る可能性は高いと思う。 ・中高生の読書の指標は何冊読んだかではなく、「好きな本と出会えた」でも良いのではないか。 ・絵本から一人読みに移る段階を支援するための手法について、研究・検討してはどうか。アニメーション等。 ・数値目標については、項目を大幅に減らしてはどうか。基礎的な数字である蔵書数、貸出数、登録率等は一つの指標となるので、毎年結果は記録し、公表すべきと思うが、その他の項目は本当に有効か、必要かを検討して思い切って減らしてはどうか。 ・子どもの貧困が社会問題になっているが、そういう子どもたちに対して、有効な働きかけを検討して実施に結び付けたい。